

《資料》

成人・老年看護学実習における看護技術の到達状況と課題

佐原 弘子¹⁾, 土屋 裕美¹⁾, 生田 美智子¹⁾, 粥川 早苗¹⁾, 宇佐美 久枝¹⁾,
荒井 淑子¹⁾, 竹井 留美¹⁾, 中神 友子¹⁾, 森脇 佳美¹⁾, 池俣 志帆¹⁾,
溝江 弓恵²⁾, 赤井 美由紀¹⁾, 吉田 誠史¹⁾

¹⁾ 相山女学園大学看護学部, ²⁾ 名古屋大学医学部保健学科

要 旨

【目的】 A大学成人・老年看護学実習における看護技術到達度を把握し、課題を明らかにすることを目的とした。【方法】 A大学看護学部成人（慢性期・急性期）・老年看護学臨地実習記録の一部である「成人老年看護学実習技術経験票」のデータを二次利用し分析した。【結果】 2014年10月の臨地実習開始時点と比較して、2015年8月総合実習終了時には、すべての大項目において実施率は上昇していた。しかし、実施率が70%を超えた大項目は、【環境調整技術】、【安全確保の技術】、【教育指導技術】の3項目に留まった。慢性期・急性期成人看護学実習、および老年看護学実習において共通して経験率の高かった項目は、患者の状態をアセスメントするために必要な看護技術、および感染管理の技術に関する項目が多かった。【結論】 成人・老年看護学実習にて技術到達度を改善していくためには、看護技術をどこまで到達させるかの目標を明確にしていくこと、および演習内容の見直しが課題となった。

キーワード：看護技術, 成人看護学実習, 老年看護学実習